

第 410 回  
日本泌尿器科学会新潟地方会  
《 プログラム・抄録 》

日 時：令和 6 年 9 月 14 日（土）15 時 30 分  
会 場：パストラル長岡 5 階 末広の間  
長岡市今朝白 2 丁目 7 番 25 号  
TEL：0258-35-1305

次回 第 411 回 新潟地方会 予告  
日時：令和 6 年 12 月 14 日（土）午後 2 時  
会場：未定  
演題申込期限：令和 6 年 11 月 15 日（金曜日）

※すべて PC のみの発表とさせていただきます  
※一般口演時間は、7 分、討論 3 分（時間厳守）

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい

〒951-8510 新潟市中央区旭町通 1-757  
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野(泌尿器科学教室)内  
日本泌尿器科学会新潟地方会  
TEL：025 (227) 2289/FAX：025 (227) 0784  
会長 冨田 善彦

15:30~15:35

開会の辞

日本泌尿器科学会新潟地方会会長

富田 善彦

15:35~16:35

座長

村田 雅樹

### 1. 妊娠後期の妊婦に対して両側 TUL を行った 1 例

長岡中央総合病院 泌尿器科

柳佳輝、丸山亮、中村涼太、渡邊和博、高橋英祐、照沼正博

症例は 33 歳女性、妊娠 25 週時に左腰部痛で当科を受診し、エコーにて両側水腎症、KUB で左 U3 に 7mm 大、右 U2 に 6mm 大の結石を確認した。左腰痛は軽快するも再び発作を起こしたため、妊娠 27 週時、無麻酔で左尿管カテーテル留置を試みたが留置できず、後日左 TUL を施行し結石を除去、両側尿管カテーテルを留置した。退院後カテーテルによる血尿、会陰部痛が強く、希望があり尿管カテーテルを抜去したが、妊娠 31 週時、右腰部痛が増強したため、右 TUL を施行し結石を除去した。その後は結石による疼痛なく経過し、妊娠 41 週で出産した。妊娠合併の両側尿管結石に対して、保存的治療が困難で、積極的治療を施行した症例を経験したので、文献的考察を含めて報告する。

### 2. 腎 mixed epithelial and stromal tumor 症例の経験

新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院 泌尿器科<sup>1)</sup>、病理診断科<sup>2)</sup>、新潟大学大学院医歯学総合研究科 放射線医学分野<sup>3)</sup>

西山紘貴<sup>1)</sup>、伊藤梢絵<sup>2)</sup>、長谷川剛<sup>2)</sup>、富永理喜<sup>3)</sup>、石田恭平<sup>1)</sup>、原昇<sup>1)</sup>、西山勉<sup>1)</sup>

30 歳台の女性が健診で右腎腫瘍を疑われ、当科を初診した。造影 CT で右腎中部に境界明瞭で平滑、漸増性に造影される充実部と嚢胞部からなる 50 x 40mm の腫瘍を認めた。乳頭状腎癌の可能性があり、また、年齢、性別、性状から mixed epithelial and stromal tumor (MEST) の鑑別を指摘された。セカンドオピニオンで希望病院を紹介したが、手術療法を勧められた。本人の希望で右腎部分切除術でなく右腎摘除術を行った。病理学的には、嚢胞部分を形成する上皮成分と、ER(+), PgR(+), Desmin (+) の紡錘形細胞が増殖する間質成分によって構成される MEST であった。

### 3. 当院における mCSPC に対するトリプレット療法の初期使用経験

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野

鳥羽智貴、石崎文雄、星野華奈、山名一寿、星井達彦、小原健司、富田善彦

2023 年 2 月に本邦において遠隔転移を有する前立腺癌に対して ADT+ダロルタミド+ドセタキセルの 3 剤併用療法が適応承認となった。現在使用できる薬剤の組み合わせとして大きな治療効果が期待でき、当院でも 2 症例に導入している。2 症例とも High volume 転移を有する前立腺癌患者であるが、治療開始後は速やかな PSA の低下および画像上での病変縮小を認めており、大きな有害事象なく経過している。

### 4. 当院における近年の献腎移植ノミネート状況の検討

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科

池田正博、田崎正行、齋藤和英、富田善彦

目的：近年、施設都合で臓器移植を断念せざるを得ない状況が問題視されるようになってきている。当院における献腎移植の状況について振り返った。方法：2018 年から 2023 年の間にノミネートされた症例を対象に移植の成否、辞退の理由など解析した。結果：74 例がノミネートされ受諾は 51 件、辞退は 89 件の計 140 件（重複あり）だった。実際に移植を受けたのは 28 例だった。辞退の理由はレシピエントの医学的理由 44 件、ドナーの医学的理由 14 件だった。結論：当院は県内唯一の移植施設であり、また臓器提供施設でもあるために負担が集中しやすい状況が想定された。

## 5. 軽尿道的尿路結石除去術後に侵襲性真菌症を発症した一例

済生会新潟病院 泌尿器科<sup>1)</sup>、新潟市民病院 泌尿器科<sup>2)</sup>  
車田茂徳<sup>1)</sup>、石川晶子<sup>1)</sup>、結城恵里<sup>2)</sup>

症例は58歳男性。糖尿病以外特記すべき合併症はなかった。ひだり腎結石に対して全身麻酔下に軽尿道的尿路結石除去術を施行した。退院3日後より発熱、膀胱刺激症状の訴えがあり、有熱性尿路感染症と判断し、入院治療を行なった。DICスコア5点、血液培養でCandida albicans、Lactbacillus speciesを検出した。侵襲性真菌症として抗菌治療、抗真菌治療、抗DIC治療を行なった。治療経過中に新型コロナウイルス感染、突発性難聴なども合併し治療に難渋した。軽度の臓器障害を残したが、全身状態改善し退院した。糖尿病コントロールが極めて不良であった症例であり、周術期管理における糖尿病コントロールの重要性を改めて認識させられたケースであり、警鐘含めて報告する。

## 6. 診療報酬レセプトについて

新潟市民病院 泌尿器科  
今井智之

《休 憩 16:35~17:00》

地方会終了後、17:00よりサテライトセミナーが予定されています。

